



AET2

Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part II

Friday 2 June 2017 9.00 to 12.00

Paper J14

Classical Japanese Texts

Answer **all** questions.

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

Shinjigen dictionary

Kojien dictionary

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

SECTION A

(1) Translate the following **unseen** text into English. [The copy of the illustrated original is only for reference.] [45 marks]

孟母はじめ住み給う家、墓の辺なりければ、孟子幼年の遊
びに葬る真似をし給う。母これを見て、我が子をおく所に
あらずとて、家を市中に変え給うに、孟子又、商人の売り
買う真似をし給う。母是を見て、此所も我が子をおく所に
あらずとて、此の度は学文所のかたわらに舍をうつし給い
しかば、孟子亦、たわむれに揖讓進退し、他を敬い己を
卑下し、礼義を正しくすることをまねび給う。是を「孟母
の三遷」という。又、学校に入りて中にして帰り給いしか
ば、母、織りかけたる機のきぬを刀もて断ちきり、「汝学問
長ぜず家に帰るは、自ら此の織物を仕遂げずしてたち切る
に同じ」といかりをなして示し給う。孟子恐れいりて再び
学校に入り、卒に大儒・大賢となり、名を天下にあげ給い
しも、母の積功によるものなり。



Question 1 continued...

家業にあらぬ遊芸などを稚おさなきものに教ゆるは、よろしからぬ事にして、得て身の仇あだとなる者なり。唯、手跡・読書・算術、是等これらは早く教えて事欠かぬ様にすべし。小児は物に心の移り易く、白糸の染みやすぎが如く、見る程の事を真似するものなり。然されば、よき所作しよさはずいぶん誉めて遣わし、悪しき事は堅く禁いましむべし。畢竟ひつきやう、子供の遊び戯れなりとて、善しあしとも取りあげざるも、子を教訓おしゆるの道にあらず。



(TURN OVER)

Question 1 continued...

子を育て教ゆるには、親の身持ち正しくするこそ専一なれ。似我蜂は外の虫を取り来たりて、「我に似よ、我に似よ」というてこれを育つるに、親の形に違わず、必ずはちになるなり。心なき虫すら斯くの如し。況や人の子をや。親正しきときは、自ずから正しきに似る事易かるべし。心に誠に之を求めば、中らずと雖も遠からず。いまだ、子を養うことを学んで、而して後に嫁ぐ者は有らず。



Kyōiku ōrai, in KOIZUMI YOSHINAGA (ed.), *Edo no ko sodate jukkajō* (2007), pp. 122, 145, 14.

SECTION B

(2) Translate the following passage from a **seen** text into English. [35 marks]

順礼、曰。
道理と、無理とハ。何として、しりわけや
翁、曰。
学文にて、しりわけたるか、よくや
順礼、曰。
我等ごときの、文字もなく。物をも、かきわハぬもの
か。何として、にハかに、よミ物いたして、まなひわハ
んや
翁^{三ウ}、曰。
学文といへは。ふるき双紙を、読はかり、学文と、おも
ハれわや。それも、まなひにて。なきとハ、申されすわ
へとも。それはかり、学文と、心得られわハ、。学文の
本意を、取うしなひ。読物ともに、せんもなき事にこそ、
なりゆきわハめ。
学文と云ハ。道理と無理とを、しりわけ。身のおこなひ
を、能せんかためにてわ。
古しへよりの、学文の品く、あらく、語わへし。
まつ、上代の学文にハ。文字なければ、読へき双紙も、
なし。天の道を、師匠とせり。天の道とハ。陰陽五行の
事なり。
天と君とハ、陽なり。地と臣下とは、陰なり。天より、
ほどこし給ふ、雨露のめ^{四オ}くミを。地、うけとりて。
よろつの物を、そたつるなり。これを見て。君、よろづ
の法度を、さため。臣ハ、君のおほせを、うけたまハリ
て。よろつの事を、と、のふものなり。
女の、男にしたかひ。子ハ、親につかゆる道も、かくの
ことし。
このことハりに、そむき。わがま、なるハ。天地、さか
しまに、なしたる事なるゆへに。是を、無理として、い
ましむるなり。
五行といふハ。水と、火と、木と、金と、土となり。
火ハ、ものをやき。水ハ、物をうるほす。かやうの事

(TURN OVER)

Question 2 continued...

を、道といひ。水にて、物をやき。火にて、物をうるほす事ハ、ならぬ事なるゆへ「四ウ」に。是を、無理といふ。かやうに、物ごとに。理と。非との。あるを。しりわくるを、学文とす。これ、上古こゝろのまなひなり。

其後そのちの学文ハ。いにしへの、りひを、よくしりたる人の、おこなへる事を。かたりつたへ。聞つたへて。其ことくするを、学文とす。

其後、代も久しく成ぬれば。よき事も、おほく、あしき事も、おほくなり。まされやすきゆへに。よしあしを、かきしるし、わかちて。よきを手本とし、あしきを、いましめとす。

其すゑに、孔子こうしの、むまれ給ふ時分ハ。天下乱国らんこくにして。孔子の弟子の外には。道、おこなふ人も、なかりしゆへに。物の本の、あつかりとなりて。よよミミ五五オオ物を、学文がくもんとせり。

しかれとも、聖人せいじんの心は。後の世に、これをよみて。道理道理あるみちを、おこなへ、と、いふことにこそ、かきお

かれてゆへ。物の本、おほく、よみて。身にハ、おこなハて。鼻はなのさきを、たかくせよ、と、いふ事にハ、あらず。又、それよりすゑ、宋そうの代にいたりて。学文、さかりにありし時。人のしなを、さためられしにも。大かた、十いろ程、みえたり。ミなまてハ、ながくしくゆま、。大かたの、しなはかり、かたりゆへし。まづ、其身に、とくありて。行ひよく。言葉ことば一つも、あたらたて。人の手本に、なるへきを。君の師匠ししやうとせり。

Kiyomizu monogatari, in *Kanazōshi shūsei* vol. 22 (1998), pp. 294-95.

(3) Translate the following passage from a **seen** text into English. [20 marks]

① 手習ひの事 ならびに 文書く事

文字といふことは、唐土に蒼頡といふ人、鳥の足跡をみてはじめて文字をつくり出し給ふ。これより手をすこし書事を鳥の足跡を学ぶといふなり。文字に真、草、行とて三色あり。行文字をやはらげて、弘法大師女のために、いろはといふ事を、四十七字の仮名に書いだし給ふ。これを女文字といふなり。いろはさへ書覚ゆれば、無智の女も歌、草子をよみて、むかしの事をしり、文玉章を書いてわが心を通じ、用をととのふ。よつて手習ひのはじめには、まづいろはより書習ひ、後には文章をつらね、男文字をもおぼゆるなり。まことに人と生れて手を書ぬは、盲目明習におなじ。たとひ

(TURN OVER)

Question 3 continued

筆美しからずとも、よく文章をつらね、よく文字をよむ事を第一とすべし。能書にてかくあらんは元よりの事なり。むかしの名ある女中、手をかき、文をつくらぬはまれなり。美しき手にて、文章面白く書たる文を見れば、その人を見ねども姿、心はへまでやさしく、艶に思ひやらるゝものなり。其ために手習ひ給へといふにはあらねど、水茎の跡を見て、男の心をよせたるためし、むかしも多事なり。眉目形うつくしくても手の拙きは、人の心おとりせらるゝものなり。されば女中の芸の第一は手かく事なり。朝夕心が給ふべし。小野道風といふ能書の方へ、ある人手本を書きて給はれと所望しければ、古筆を箱に入れてやられけり。古筆は望みに非ず、手本の事なりと重ねて申ければ、道風の給ひけるは、此ごとく古筆の積る様に心にいれて、習ひ給へと申されけるとなり。

Onna chōhōki, critical edition edited by NAGATOMO CHIYOJI (1993), pp. 118-119.

END OF PAPER